

出会い ふれあい 助け合い

サロンのあべの

VOL.187



〈サロン・あべの〉12月の出会い

平成13年12月1日(土)、〈サロン・あべの〉12月の出会いは、年忘れ昼食会「ひろを楽しもう」と題して、地下鉄御堂筋線あびこ駅を東に入った「なごみ処 えん」(大阪市住吉区苅田3-6-5メゾン大友1F)で開催しました。

今回お世話になった「なごみ処 えん」は、サロン10月の出会いで紹介した「大阪バリバリマップ」誌に載っているお店で、誰にでも優しいバリアフリーの居酒屋さんです。店を切り盛りする女将さんは、10年近くヘルパーをしていた経験を生かして、昨年11月に

お店をオープン。ちょうど1周年を迎えたところだったので、店内にはたくさんお祝いの花が寄せられていました。

全員がそろったところで、ビールが注がれて、まずは今日の出会いに乾杯。

この日は「えん」の特別弁当です。

刺し身や鳥の唐揚げ、酢の物、だし巻き、おにぎり、野菜、温かい味噌汁など、ヘルシーでボリュームのあるメニューで、美味しくいただきました。

食事が進む中、お互いの近況や今年1年を振り返ったりと、話はずみ場がにぎやかに和んでゆきました。

食後、ケーキとコーヒーをいただきながら、参加者に「お昼の楽しみ」を書いていただきました。また、本日のお楽しみとして「平

成14年度の卓上日めくり」を景品にあみだくじ抽選会をしました。当たった人から自己紹介や近況をお話いただきました。1年ぶりの方もおられ、出会いの楽しさ月日の速さが見えました。

店内は明るく広く車いすでも行き来しやすくなっています。

特に驚いたのは、トイレの設備です。出入り口は引き戸になっていて、中は車いすで方向転換が楽々できるスペースと適度な位置に手摺が取り付けられており、安心して利用できます。

「なごみ処 えん」は、店主のバリアフリーな心配りを形にした本当にゆつたりとした気持ちになれるお店です。こんなお店がもっと増えていけばいいなあ…と感心した〈サロン・あべの〉12月の出会いです。

参加者12名(山村貴司)

昼の楽しみ

◆ 昼の楽しみ・・・

昼休みは、自動車の中でラジオを聴きながら、ウトウトと昼寝をしています。

小春日和がなによりです。

うえひら☆ゆきお

◆ お昼の楽しみは、お昼ご飯と、食べた後はやっぱりゴロンと昼寝が一番。

山村 貴司

◆ なごみ処「えん」さんは車いす

もゆつくり入れるよいお店でした。おっとりした心なごむお店です。

私のテーブルは女ばかり四人でしたので、おしゃれやら、ダイエットの話に花が咲き、楽しい時を過ごさせていただきました。来年もよろしく。みなさまと新しい年にむかつて歩んでゆきたいと思えます。

表谷 恵美子

◆ 長い間ごぶさたしていました。介護の仕事の都合で、なかなか(サロン)に参加できなくなりましたが、今後、仕事の時間があきしだい参加したいと思えます。

久木 浩

◆ (サロンの) 出会で、我孫子に始めて来ました。そして「えん」という、バリアフリーのすてきなお店に連れて来ていただ

き、楽しいひとときをありがとうございます。ございました。

毎月の出会いには、なかなか出られませんが、こうしてたくさんのおふれあいをしていただき、お仕事のそして日々の生活の力をいただき感謝です。これからもどうぞ楽しいこの出合いがずっとずっと続きますように・・・

よろしくお願ひします。

皆様のご健康をお祈りしています。

岡 賀寿子



にぎやかに昼を楽しむ

◆ お昼の楽しみ・・・

いつものお昼は、一人で食べる事が多いので、朝の残り物で済まします。だから、たまに外食などするとお腹の具合が悪く

なり、善し悪しです。とはいえ、温かい出来立てが食べられるので、1カ月に二〜三回の外食は、とても楽しみです。定食日(替わり)などが一番好きです。

藤井 さゆり

◆ 昼の楽しみは、会社にいるときはとても安い昼食(一五〇円くらいかな、後は会社が半分負担)です。そして、食後二〇分ほどの休憩時間に交わす友人との会話です。

休みの日は、子供と妻とのお出かけが楽しいです。

加賀谷 正

◆ 食事は何年ぶりの参加かしら・・・二年ぶりだと思えます。バリアフリーのすてきなお店を見つけてきてくださりありがとうございます。手頃なメニューで心がなごみました。

テーブルでお話もでき、楽しく

すごさせていただきました。

安達 尚子

◆ (サロン・あべの)今年最後の出会いに参加できましたこと大変嬉しく思っております。また、大変楽しい出会いです。今日は本当にありがとうございます。

来年も(サロン・あべの)の発展をお祈りします。

石原 栄

◆ (サロン)の毎月の出会いはいつも勝手ばかりいたしておりますのに、今日の「なごみ処

えん」の昼食会には一年ぶりで寄せていただき、懐かしい方々にお会いできまして嬉しいでした。おもしろかったお料理もさることながら、積もる話につき

ず、本当に楽しい一時を過ごすことが出来、思い切つて参加してよかったですと思います。また

また

日々の生活の活力、闘病に対する意欲が湧いてきました。ありがとうございました。

杉山 薫枝

◆ 昼ご飯の後、映画館へ!

まだ東京五輪も大阪万博も開かれていない昔むかし、気楽なサラーマン稼業をしている頃の館内で、眠くなれば寝て、気分爽快に目覚めたところで帰社。

まさに最高の楽しみでした。

(石)

◆ 寒いときは、温かいお昼を食べ、体がほっこりしたら、そのままテレビの音を子守歌に、スーとお昼寝タイムが一番。でも、今日のように楽しく語りながら過ごせるお昼は心がほっこり。すてきな出会いは、体も心もぬつくぬく。

とみたけいこ

＜サロン紙＞楽しみにしています

＜サロン・あべの＞紙186号拝受しました。今年も後わずか、いろいろな話題を提供していただき、ありがとうございました。この出会い、大切にしたいと思えます。

・虚礼について――

「行けたら行きます」という返事に、多分来ないだろうと判断します。本当におっしゃる通りです。

・公園の手品師――

とってもいい歌です。なつかしい歌です。カラオケなどで歌います。

・三寒四温――

山口康二郎様のお答に、なるほどと思いました。

・たまごが ポン!――

拝読したいですね。

来年も楽しみにしております。

東 百合子

障害者の雇用と 就労を考える

8

障害者の雇用就労

—1—

茅原聖治

障害者の雇用・就労は、その障害の種類、程度、労働特性など非常に広範なため、いくつかの形態がある。それは大まかに言う「雇用就労」と「援護就労」に分けられる(関宏之による分類に依拠)。

前者の雇用就労は、「雇用」という言葉からもわかるように、一般の人々が働いている民間企業、官公庁、各種の法人などにおける労使関係に基づく就労形態である。言うまでもなく、一般の労働者と同様に、この雇用就労の形態において働いている障害者には労働関係法における労働者の権利や国民年金・厚生年金などの社会保障、福利

厚生などが保障されている。その反面、一般の労働者と同じく、労働時間は八時間以上であり、また民間企業の場合、その目的は利潤の極大化、産業内シェアの最大化などであるために、労働者にも効率性、高次の能力を求める、いわば苛酷な競争社会となっている。そのため、企業は障害者の労働力を過小評価するため、働きたいと考える障害者と企業の間で労働需要と供給のミスマッチを生ずることとなる。過去、このミスマッチが障害者の側の責任にのみ帰されて考えられていたため、結果として、例えば職場復帰訓練や職業リハビリテーションなどにより、職業能力を獲得・復帰することが、または代替的能力を開発することができた障害者のみ雇用就労は限られていたと言つてよい。

しかし、このミスマッチが企業側の障害者に対する先入観や誤解に基づくものであること、障害が社会によって構築されるものであるという考えなどが普及するにつれて、企業の社会的責任を求める形で、障害者雇用を民間企業や官公庁において義務づける制度が誕生した。それが現在の障害者

雇用の「法定雇用率」制度である。すなわち、企業は全従業員の何%かの障害者を雇用しなければならないというもので、それは一九六〇(昭和三五)年に制定された「身体障害者雇用促進法」において具現化された。しかし、当初は法定雇用率(官公庁・現業機関一・四%、非現業機関一・五%、民間事業所一・四%、非現業事業所一・一%)、事務的・事業所一・三%)が「努力目標」として位置づけられていた。そのため雇用の大幅な改善は見られなかった。障害者雇用が本格的に伸びてくるのは、一九七六(昭和五二)年の「身体障害者雇用促進法」の抜本的な改正の後である。改正雇用促進法では、雇用規制の中で最も厳格な「割当雇用措置(quotas system)」の義務化が制度に加えられ、法定雇用率も強化されている。

さらに数度の改正と一九八七(昭和六二)年に「障害者の雇用の促進等に関する法律」と改名された現行法では、平成一〇年七月、その対象に知的障害者を加えたことから、法定雇用率が、民間企業は一・八%、特殊法人一・一%、国、地方公共団体二・一%、一定の教育委員会六・〇%に引き上げられ、現在に至っている。

★四十年後の日記

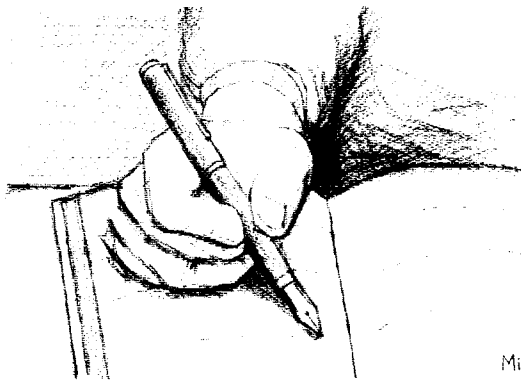
元旦から日記を書き始めた。私の場合、それは何度目のことかわからない。それほど何度も元旦から日記を書き始め、きまつて一月の半ばで空欄が続くようになるのだった。

日記をつけることは素晴らしいことなのだ、子どものころから教えられ、毎年のように日記帳を買っていた。しかし、どうしても続かない。理由はいくらでもあったが、要するに面白くないのである。なぜ面白くないかといえば、結局のところ自分以外に誰も読んでくれないからだと思う。

一人で山に登るのが好きな人も、その体験を人に伝えることができるから登るのだという話を聞いたことがある。誰にも伝えられない体験は秘密めいているが、秘密が本当に魅力的なのは限られた人々と共有できるときだ。誰にも言いたくない過去のごときは、私にはひどく恥ずかしいことではなく、忘れられたらそのほ

うがよいのである。

つまり、日記は素晴らしいものだと思えられながら、一方で、日記は人には見せないものだと思いきこんでいた。したがって、人に伝えたい体験はそこに書いてもしかたがなかったし、伝えたくないことは私自身、忘れたいことであって書



Mi

き残しておく意味を見出せなかった。その結果、日記を前にしても何も書くことがなかったのである。

しかし、日記は人に見せないものだとどうして思いきこんでいたのだろう。人に見せることを考えると、本当のことが書けなくなるからと教えられた気がするが、しかし人に見せなければ本当のことが書けるのだろうか。いや、そもそも誰からも読んでもらえない文章を充分に書けるのかどうか、私には疑わしい。

たとえば、誰もいない部屋で独り言を言うとする。私たちは長く話すことができるだろうか。私はできないと思う。独り言は断片的なもので、支離滅裂なものではないだろうか。

イエスや仏陀も孤独のなかで考え続けた。しかし、考え抜いた末に得た思想は人に伝えるという目的があったからこそ、まとめられたのだと思う。

私にとって日記は何度も続けようとし

ながら続けられないものだった。それは、誰の耳にも届かない独り言を言い続けられないのと同じ理由だったと思う。

しかし今年の日記は長続きしそうだ。というのも、こんどの日記は私の子どもが私と同じ年齢になったときに読ませようと思うからだ。彼が私と同じ年齢になるのは四十年後だ。私はもう死んでいるかもしれない。死んでいないとしても、八十を過ぎた私には四十代の日々を細かに思い出すことは不可能だろう。

私の今年の日記は息子が開く四十年後の日記でもある。そのころの世界がきつと平和でありますように。(知)



感謝



カンパ、切手、冊子、新年度卓上日めくり等、またサロングッズのお買い上げをありがとうございます。

石原 栄 (大阪義肢装具センター)、
今西美奈子、崎本ヒサエ、澤田妙子、
田村昌子、T・R、中島良子、
長島伊津子、表谷恵美子、松田肇子、
松村順子、宮崎徹朗、森 芳江、
山本鈴子、山本敏子、その他、

新年の抱負

平成十四年という新しい年が明けました。周囲も自分自身も昨年と少しも変わっていないのに、新年を迎えたというだけで新たな気分させられるから不思議です。

さて、「新年の計は元旦にあり」と言われるように、私も毎年一月一日にその年の目標を立てることにしています。それで今年はどうな目標にしようか、とあれこれ考えました。

実は今年の七月に私は六〇歳、いわゆる還暦を迎えます。そう言う、たいがいの人はいわゆる還暦を迎えます。そう「へえつ、うそ！」と怪訝な顔をするのです。

「ほんなら、なんぼぐらいに見える？」と逆に聞きますと

晴れのち晴れ

④

稲垣 恵雄

「どう見ても四〇ぐらいやね」と顔を見合せて笑います。

私は童顔なので誰が見ても四〇歳ぐらいにしか見えないのでしょう。人間誰しも更けて見られるより若く見られる方がうれしいのかも知れませんが、実年齢とあまりかけ離れたことを言われると良い気持ちはしません。

ところで、還暦の別名を耳順(じじゅん)と言います。耳順とは、

「修養ますます進み

聞くところ理にかなえば

何の障害もなく

理解しうること」

という意味です。

「修養ますます進み」とはなかなかできませんが、この「耳順」ということを深く味わい、少しでも実践していくことを今年の目標にしたいと思います。

植物あれこれ

第三十六回

山口康二郎

—松竹梅—

十二月になると正月の寄せ植え講習会の依頼が多くなり、あちこちに出かけるのが例年行事のようになりました。

正月の寄せ植えといえば、松・竹・梅が代表的なのですが、年々「洋風寄せ植え」の希望が多くなってきました。例えば日常売っている花苗も、ほとんどカタカナの名前になってしまった感があります。洋風といっても冬の季節でいうと、シクラメン、ポインセチアなどがすぐ思い浮かびます。何しろ十二月の花屋さんの店頭はこの二種類とシンビジウムを加えた三種類で、七割を占めている有様です。

特にクリスマスカラーは赤と緑なので、ポインセチアは洋風寄せ植えには必須といえます。

しかし、ポインセチアはもともとメキシコ原産で、寒さに弱いうえに開花時期の移植は好まないのになかなか難しいのです。どうしても使わざるを得ない場合は、ビニールポットに入れたまま植えるようにします。それでもあまり長持ちするものではありません。

幸いなことに、ここ数年前より葉ポタシがいろいろ改良され、洋風にも似合うものが出回っており、違和感なく植えられるので助かっています。

古いといわれるかも知れませんが、やはり正月の寄せ植えは、松・竹・梅に勝るものはありません。何より日本の気候風土に合っていることです。

「和風寄せ植え」をした方に一年後に逢いますと、開口一番

「去年の寄せ植えが、まだちゃんと生きていますよ」といつていただくのが、私の

楽しみです。

実際に、一年経ったこれらを調べてみると、樹高は五センチも伸びていないのに根は三〇センチ以上もあり、しかも四方八方に伸びています。

「植物を育てるとは、根を育てること」なのです。松竹・梅、南天等々、これらのたくましさに励まされながら今年も大地に根を張って生きたいと思っっている昨今です。

今年もよろしくお願いします。



美智子のこんな話

岸田美智子

今年も、自立生活センター・まいどをよろしく

読者の皆さんにとって、昨年はどのような年でしたか？ 自立生活センター・まいどにとっては、激動の一年でした。

まず、自立生活プログラムを二回行い、新しい障害者の仲間のつながりが広がりました。そして、私たちの自立支援で、地域で自立生活を実現されたメンバーが二人、一人は在宅から一人暮らしに、もう一人は入所施設からNPO法人ライフ・ネットワ

ークが運営する「グループホームほんわか」に入居されました。お一人ともやっと地域での自立生活にも慣れ、よりその人らしい地域での自立生活をエンジョイされています。(してへんかったらどないすんねん...)

また、昨年度六月より大阪府の承認を受け、NPO法人ライフ・ネットワークとなり、活動を整理しました。「まいど」もその中の一つだよ

さらに、地域での障害者の自立生活を実現させるためには必要不可欠であるヘルパー派遣もスタートすることができました。(ヤッター!)

このヘルパー派遣の新事務所も昨年の十二月に独立し、着実に一歩ずつですが、力をつけています。(そうか?)

今年には施設から地域へ移行する方の大阪市のモデル事業がスタートし、新たに地域自立されるメンバーが三名確定し、個別自立支援計画づくりや、通過施設としての福祉ホームの建設などに自立生活センター・まいどの力が試される年になりそうです。(春場所か?)

昨年は同時多発テロ事件に象徴されるよ

うに、不安の多い一年でしたが、今年は明るいニュースが多い一年であって欲しいものです。そしてもちろん、障害者も生活をエンジョイできる年にしたいものです。皆さん、ことしもよろしくお願いします。

二〇〇一年度まいどセミナーのお知らせ
どうなるの？ 介助制度・全身性制度

□日時 二〇〇二年二月三日(土)

午後一時～四時

□場所 大阪長居障害者スポーツセンター

二階第一講習室(Tel.06-6697-9681)

(最寄り駅 地下鉄御堂筋線長居

駅またはJR阪和線長居駅)

□資料代 五〇〇円

□講師プロフィール

・長尾 祥司氏

自立生活情報センター パーソナルサ

ポートひらかたスタッフコーディネイ

ター

・古田 朋也氏

特定非営利活動法人 ライフ・ネット

ワーク理事長 障害者の自立と完全参

加を目指す大阪連絡会議(障大連)事

務局次長

【連絡先】

自立生活センター・まいど

担当 岸田

〒五五八-〇〇〇-一

大阪市住吉区長居西一-九-十二

キミハウス一階

TEL 〇六-六六〇九-三三三三

FAX 〇六-六六〇九-三三二〇

E-mail

cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

お知らせ

△サロン・あべのV2月の出会い

日時：2月16日(土)午後1時～4時

場所：育徳コミュニティセンター2階

研修室(スロープ・車いす対応有)

〔大阪市阿倍野区阪南町5-15-28〕

TEL 06-6621-1901

・最寄り駅 地下鉄御堂筋線「西田辺駅」

内容：「メイクと心」

～五感のチカラで明るく元気に～

パネラー：筑後 千晶氏

角谷 安規子氏

メイクアップアーティスト・

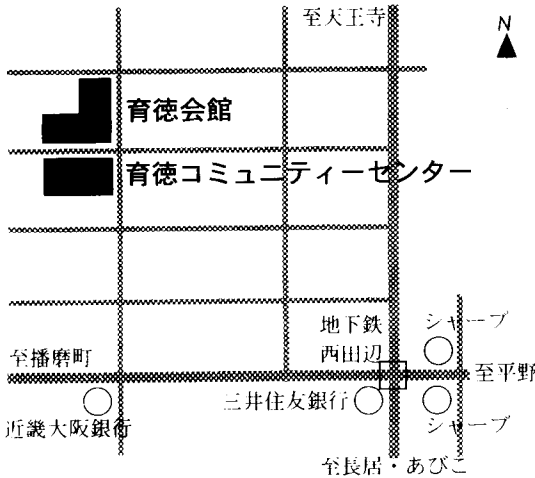
同志社大学化粧心理学研究会・

会員

会費：なし

問い合わせ先：

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



朗読テープのご案内

朗読グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第186号の録音テープが出来ました。

朗読テープ文庫

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第186号までそろっています。
 - (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー!」
 - (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
 - (d) 「ラジオたんば」放送(サロン・あべの)平成七年五月の出会い」放送分(30分)
 - (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』」ポランテア活動の周辺(岡本栄一著)糸でんわ音訳
 - (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ」身障者だけで旅した十余年(山田誠1995・2・22著)糸でんわ音訳
 - (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著)糸でんわ音訳
 - (h) 「タやけ空のオニヤンマ」(牧口一二著)糸でんわ音訳
 - (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著)糸でんわ音訳
 - (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著)糸でんわ音訳
 - (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修)大阪市立天王寺図書館制作
 - (l) 「知らされない愛について」(岡知史著)ほけつと音訳
 - (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳
 - (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳
 - (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著)糸でんわ音訳
 - (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳
 - (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著)糸でんわ音訳
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06-6691-1028)まで。

ききみみすきん

年の初めに

あけまして

おめでとうございます。

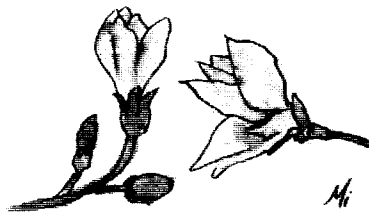
昨年は何かとお協力を賜りまして、ありがとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様には、どのような新年をお迎えになられましたか。今年は寒さがことのほか厳しいように感じますが、届いた年賀状を見ているとそれぞれの思いが感じられて心が温かくなります。その中にFAXの年賀状がありました。家族の近況の他に「世界がもし百人だったら…」という問いかけがあり、現在の人類統計比率をきちんと盛り込んで、全世界を百人の村に縮小するとしたら、アジア人は五七人、女性は五二人、異性愛者は八九人、全世界の富の五九%を六人

が所有、八〇人は標準以下の生活、七〇人は文盲、たった一人が大学教育を受け、コンピュータを所有しているなど、さまざまな提言が縮小された世界から発せられています。その中で自分の立場や他の人のことも考えてみよう。そして現実の恵まれた社会を知り、自分と違う社会があることに思いを馳せると共に他者の世界をあるがままに受け容れられるか、と問いかけています。その中に障害を持つ人が何人いるのかは出ていませんでしたが、五〇人が栄養失調で苦しんでいるそうですからいいことはないでしょう。不足も知って、足るを知る。そんな諺もあったような気がした年の初めでした。

(け)

電話は早い、
ファックスも
Eメールもある
けど、
こころ伝わる
サロンの絵はがき
がいい。



サロンの絵はがき

五枚一組 一八〇円



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川 2月の社会い

日時:2月17日(日) 午後1時30分~4時

場所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容:鍼灸師から見た健康な身体とは
~身体のツボを教えます~

パネラー:吉田 晶子氏

(天童鍼灸院鍼灸師、各国にて鍼灸の
講演豊富「健康とは」)

会費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:kubota53@mboxinet-osaka.or.jp

■「サロン・ひらの」2月の社会い

日時:2月23日(土) 午後1時30分~4時

場所:にこにこセンター(大阪市平野区平野東2-1-30)

内容:参加費:未定

問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」2月の社会い

日時:2月9日(土) 午後1時30分~4時

場所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容:視覚障害者について学ぼう!

手引き体験も挑戦!

*レクリエーションゲームなどで楽しい交流もありますよ

講師:鈴木 昭二氏(ウイズ兼淀川 代表)

会費:なし

問い合わせ先:宮脇 ☎06-4394-5353

■「サロンいんたみ」2月の社会い

日時:2月23日(土) 午後2時~4時

場所:伸幸苑(伊丹市寺本6-150)

内容:ふれあいコンサート

会費:なし

問い合わせ先:砂島 ☎0727-84-0057(午後7時以降)

■《てくてく・すみよし》2月の社会い

日時:2月10日(日) 集合時間:午前10時

集合場所:JR天王寺駅北口

内容:大阪歴史博物館 見学(地下鉄谷町線 谷町4丁目駅)

会費:未定

申し込み締め切り:2月5日

申し込み・問い合わせ先:山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロンつるみ」2月の社会い

日時:2月10日(日) 午後1時30分~4時

場所:鶴見会館2階

大阪市鶴見区横是5-5-51

(地下鉄鶴見緑地線鶴見駅5番出口)

内容:祇園祭でコンチキチン

パネラー:武 直樹氏(生野区社協ボランティアコーディネーター)

会費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村 ☎06-6913-7070

■サロン『アイ』2月の社会い

日時:2月9日(土)・16日(土)

場所:生野在宅サービスセンター

「はかちやま」2階ボランティアルーム

大阪市生野区勝山北3-13-20

内容:みんなで考えよう 心の病こつて

*2月9日「シンポジウム」午後1時30分~4時30分

パネラー:精神科医

荒川 幸恵氏

生野保健センター相談員

服部 保子氏

アトリエIK施設長

川上由夏代氏

当事者

3名

生野区社協ボランティアコーディネーター

武 直樹氏

*2月16日「当事者の人たちとともに」午後1時30分~4時

パネラー:精神保健福祉士

SST普及協会関西地区


世話人

瀧本 優子氏

会費:なし

問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101



これは便利。
一筆箋
1冊100枚綴 ¥150—

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。

FROM EDITOR 編集後記

今年度から、大阪市ボランティア活動振興基金助成金の交付はありません。前にもお話ししましたが、運営費用は切り詰められるだけ切り詰める努力はしていますが、自ずと限界があります。加えて、毎年の助成金がないとなれば、唯一固定していた収入源ただけに、苦しい財政がますます苦しくなります。窮状をご賢察ください。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.187 [H.14. 1.19.発行] 定価¥100.
代 表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071
連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028
表 題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941
印 刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDELL2F TEL06-6719-8212